



別刷り

第13回

最終回

学習企画

「軍事国家への道を許さない」

この間の変遷

この間2001年9月11日に起こったアメリカへの同時多発テロをきっかけにアフガニスタンへの有志連合が結成されました。この時アメリカから日本への要求には「ショー・ザ・フラッグ」という自衛隊の派遣でした。しかし、派遣の具体的な中身の要請はなかったのです。「中身は日本が自分で考えろ。」というものでした。この時点から「アメリカが個別の要求を出す」から「日本はどう主体的にかかわるのか?アメリカと一体化しろ」と迫られた転換となりました。2003年3月

17日イラクへの最後通牒がされ、イラク戦争が勃発した時には、「ブーツ・オン・ザ・グランド」として自己完結型の軍隊の派遣がアメリカから日本へ要請されました。

こういう流れの中で自衛隊も変貌し、茨城の自衛隊も変貌してきました。もっとも大きな違いは、日米共同という形が35年前と比べると比較にならないところになり、役割分担からアメリカ軍の1部隊に変更したというところです。

茨城の自衛隊基地一覧

| 市町村 | 自衛隊基地 | 配備されている主な部隊 |
|--------|-------------|--|
| ひたちなか市 | 陸上自衛隊勝田駐屯地 | 施設学校 施設教導隊 警務隊 東部方面後方支援中隊 |
| 小美玉市 | 航空自衛隊百地基地 | 第7航空団 百里救難隊 移動管制隊 中部航空施設隊第3作業隊 基地警備教導隊 百里管制隊 百里気象隊 |
| 土浦市 | 陸上自衛隊土浦駐屯地 | 武器学校 武器教導隊 |
| 阿見町 | 陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地 | 武器補給処 航空学校霞ヶ浦分校 第306武器野整備中隊 気象派遣隊 霞ヶ浦駐屯地業務隊 |
| | 航空自衛隊 | 航空自衛隊第3高射隊 |
| | 朝日分屯地 | 需品補強処朝日支処 |
| | 技術研究本部土浦試験場 | 航空装備研究所土浦支所 |
| 古河市 | 陸上自衛隊古河駐屯地 | 施設補給処 第一施設大隊 第337高射中隊 |

▲筆者作成

さて、茨城の主な部隊は表のようになっています。この部隊配置をみると、茨城県の特徴としては①武器の補給と武器の扱い方を訓練する役割を持つ武器補給処・武器教導隊があることがわかります。陸上自衛隊で使用する武器の後方部隊であることがわかりま

す。②施設補給処・施設教導隊があり、その補給と機器の扱い方の訓練をします。陸上自衛隊で使用する施設関係の後方部隊であることがわかります。「施設」とは昔の部隊で言うところの「工兵」です。道路を作ったり、滑走路を補修したり、川に臨時の橋を架け

るなどを担うところです。③長い滑走路を持つ百里基地があります。戦闘機が配備されていますが、長距離輸送機も離着陸できる基地となっています。

これらからわかることは、仮に台湾を巡る戦争や朝鮮半島での戦争が起こった場合は、兵器や施設関係の補給基地群とそれらを戦場に輸送するための滑走路が揃っている県ということです。同時に負傷兵の搬

送の任務。緊急に招集された兵士の教育訓練を担う基地群になっています。ですので茨城県は、戦争が起きた場合は戦争を継続・拡大させる拠点の県の一つになるということです。県民の多くは茨城県を平和な県にしたいと願っています。しかし、茨城県の自衛隊基地はそれとはまったく反対の役割を担うものになっていきます。

百里基地の変貌する姿

百里基地に配備されているF-2戦闘機ですが、ASM-3というマッハ3以上の超音速飛行ができる対艦ミサイルを搭載することができます。今回防衛力整備計画で打ち出された巡航ミサイルである12式地对艦ミサイル能力向上型も搭載される日が来るかもしれません。

また、この間アメリカ軍のみならずドイツ・インド・オーストラリアなどとの訓練が盛んに行われています。今後もこのような飛来・演習の頻度は増すことが予想され、文字通り百里基地の部隊がアメリカ軍の1部隊・国連軍への協力部隊・協力基地としての運用になっていくこととなります。

今春から茨城空港では、台北への直通路線が開設されました。これ自体は産業の活性化や人的交流などの面がありますが、軍事という面で見ると台北への直

通便がある軍民共用空港は千歳空港・小松空港・福岡空港・那覇空港に続いて5番目の空港となり、百里から台北への飛行ルートが日々確認できる状況になるということは押さえておきましょう。



▲XASM-3を搭載したF-2 (出典: Wikipedia)

土浦・霞ヶ浦駐屯地の変貌する姿

阿見には、武器補給処があります。ここの責任者は2007年までは陸将補でしたが、1階級上がり陸将職が着任しました。つまり重要性が増したということです。そして昨年12月の安保3文書の発表により大幅な兵器の開発・配備が計画に浮上してくると、土浦・阿見地域の軍事的な重要性がさらに上がってきます。

今回でこのシリーズは終了しますが、今日本は非常に危険な状況に入ろうとしていることを国民にはほとんど知らされていません。多くの県民に現状を粘り強く知らせることが大事だと思います。茨城県を戦争の継続・戦地拡大の拠点となる県へと変貌させないようにしていきましょう。(国吉)



▲土浦駐屯地 (出典: Wikipedia)